

📅 2023年11月11日

今月のひとこと

【Vol.251】 今月のひとこと

今月の
ひとこと

三つの悪魔にご用心

故ジョン・レノンに「イマジン」という名曲があります。その2番は「想像してごらん、国なんてないんだ」という歌詞で始まっています。以下は私の替え歌です。

♪想像してごらん 国なんてないんだと
そんなに難しくないだろう？
公的年金も国民健保もない そして税金もない
さあ想像してごらん みんなが自立して生きているって・・・♪

税金がないのはありがたいですが、そのかわり、完全に自立して将来の自分は100パーセント、今の自分が支える社会です。もちろん、百年後はいざ知らず、これからそういう社会がすぐに来ることはないでしょう。でも、お国や企業がわれわれの老後のすべての面倒を見てくれる時代が終わっていることも事実です。現実はいさだけこのような世界に近づいているのです。それをイマジンして行動することが必要です。

その手段が資産形成です。私は資産形成でもっとも重要なのは長期・継続・分散・低コストの四つだと考えています。それでも長期投資の長旅には決心を揺るがす三つの悪魔が登場します。

最初に出てくるのが「無知」という悪魔です。「投資などばくちだ。あんなものはまともな人間のすることではない」と。多くの人が投資と投機を間違えているのです。

しかし、「将来の自分は今の自分が支える」ことに気づき、大幅な値上りなど狙わず「退職後の生活水準が大幅に落ち込まない」程度のリターンを狙って資産形成をすればよい。これで無知の悪魔は撃退したことになります。

無知の悪魔を乗り越えて、人生を通じての資産運用を始めてしばらくすると必ずといっていいほど市場が暴落したりします。もしかすると世界的な金融危機などといわれる事件が起こるかもしれません。

こんなときでも積立投資を続けていて大丈夫だろうか？これはもっともな不安です。もっと下がったらどうしよう。つい昨日まで「俺もやろうかな」などと言っていた友人も「だから危ないと言ったじゃないか」などとささやきます。

当然、不安になります。こんなときに出てくるのが「恐怖」の悪魔です。「もっと下がるかもしれないぞ」と悪魔がささやき、恐怖にかられて積立をやめてしまうのです。



それだけではありません。とりあえず全部売っておいた方がいいのではないかとってしまうのです。下がったところで買い戻せばいいと考えます。逆の恐怖の悪魔もいます。マーケットが大幅に上昇する。そうすると「そろそろ利益を確定した方がいいよ。どうせバブルは崩壊するから、下がったらまた買えばいいじゃないか……」。そんなささやきが聞こえます。しかし、そのような短期投資は破滅への道。そんな誘惑にも耳をふさいで積立を続ければいいのです。

これらの悪魔の誘惑を乗り越えて資産運用を続けているとだんだん自信もついてきます。本を読んだりセミナーに出たりして知識もついてきます。そうすると少しずつ時間をかけて資産を形成するのがかったるい感じを持つようになります。これが第三の悪魔、つまり**欲望**の悪魔です。

もっと早く、たくさんもうかりそうな方法があるはずだという考えがよぎります。短期間で大もうけしたというような話も耳に入ります。多くの場合、それは投資ではなく、投機が一発当たったというのにすぎないのですが、つい、それを狙ってしまうのです。そしていつか本来の資産運用から離れて投機家への道に迷い込むことになってしまうのです。

これら三つの悪魔の誘惑に対するワクチンが「**資産運用は歯磨きのように**」という一言です。歯磨きは格別楽しくもなく、エキサイティングでもない。でもきちんと続けていないと老後になって困る。まさに長期投資と同じです。

(岡本和久筆)



FIWA®からののお知らせ・セミナー予定

218回FIWA®マンスリー・セミナー

開催形式： On Line

主催担当： 赤堀 薫里

開催日時： 11月19日（日） 12:30～15:30

講演・講師：

① 岡本 和久 名著読み解きシリーズ 「ウォール街のランダムウォーカー」を読み解く 第4回「ウォール街の歩き方～財産の健康管理、インフレ、ライフサイクル、三つのアプローチ」（全5回）

② 東京海上アセットマネジメント チーフストラテジスト平山 賢一氏「物価変動と金融政策の未来」

備考： お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります<https://happymoney.stores.jp/>

参加費： 3,300円

FIWA®セミナー FIWA® 設立4周年記念セミナー

開催地： 大阪

主催担当： 岩城 みずほ・石津 史子・赤堀 薫里

開催日時： 11月25日(土)

開催時間： (講演会) 14:00～16:45、(懇親会) 17:30～19:30

会場： 教室開催・懇親会 天満橋ドーンセンター セミナー室2

講演テーマ： 「長期投資で幸せで豊かな人生にしよう！」

プログラム

①「すべては生活者のために～FIWA®4年間の歩みとこれから」 FIWA® 理事長 岡本和久

②「新NISAで始まる我が国の金融立国化」 FIWA®理事 中野 晴啓

③「求められる100歳まで安心のマネープランアドバイス～コンサルテーションの現場から～」 FIWA®副理事長 岩城 みずほ

④質疑応答

会費：

・講演会 1,100円 (税込)

・懇親会 4,000円 (飲み放題・立食)

主催： NPO法人みんなのお金のアドバイザー協会

詳細： <https://fiwa.or.jp/2023/08/01/4194/>**219回FIWA®マンスリー・セミナー**

開催形式： On Line

主催担当： 赤堀 薫里

開催日時： 12月17日(日) 12:30～15:30

講演・講師：

① 岡本 和久 名著読み解きシリーズ 「ウォール街のランダムウォーカー」を読み解く 第5回「兜町、散歩の仕方」(最終回)

② コモンズ投信株式会社 代表取締役社長 兼 最高運用責任者 伊井 哲朗氏
「世代を超える30年目線で歩み続ける(仮)」

備考： お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります

<https://happymoney.stores.jp/>

参加費： 3,300円

220回FIWA®マンスリー・セミナー

開催形式： On Line

主催担当： 赤堀 薫里

開催日時： 2024年1月21日(日) 12:30～15:30

講演・講師：

① 岡本 和久 名著読み解きシリーズ 「キャピタル」を読み解く

② 代表取締役社長 兼 最高運用責任者 馬淵 治好氏

「年初恒例 どうなる今年の経済・金融市場」

備考： お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります

<https://happymoney.stores.jp/>

参加費： 3,300円

FIWA presents 「FIWAみんなのお金チャンネル (YouTube)」 配信中

岡本和久のDIY資産運用講座など過去、現在の動画をご覧ください。

<https://www.youtube.com/@fiwa8445>



FIWA presents 「マネーマネーマネーfor you」 開催中

金融商品の販売にかかわらない独立系アドバイザーが集まってNPO法人みんなのお金のアドバイザー協会（FIWA）で、新しくポッドキャスト配信を始めました。ポッドキャストとは、後からいつでも聞くことができるラジオのようなものです。今後はFIWA会員のゲストトークも予定しています。



パーソナリティは小屋と、キャサリンとナンシーの3人が務めています。お金に関するさまざまな気になることを楽しく語っています。40代の子育て中の3人が幅広くFIWAのことを知ってもらうために、頑張りたいと思います。よろしく願いいたします。



マネーマネーマネーfor you



今月号の記事をすべてダウンロード

このページを印刷する

カテゴリー

今月のひとこと

タグ

【Vol.251】 2023年11月15日発行



📅 2023年11月11日

FIWAマンスリー・セミナー講演 1

【Vol.251】FIWAマンスリー・セミナー講演より（講演1）

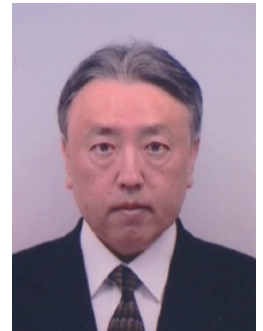
金融経済教育が目指すもの日本と世界の金融リテラシー普及の取組み

経営・金融コンサルティング
福岡大学非常勤講師 津曲 眞樹氏
レポーター：赤堀 薫里

津曲 眞樹氏 プロフィール

前金融庁 総合政策局 総合政策課 課長補佐およびOECD-INFE金融教育に関する国際ネットワーク諮問委員。

CFA、CMA、Yale経営大学院MBA。中央信託銀行、年金資金運用研究センター（現年金シニアプラン総合研究機構）客員研究員、世界銀行上席投資担当官、Tsumagari&Co.,Ltd.代表取締役、国際農業開発基金CFO顧問、東海医療科学専門学校顧問、鹿児島市身体障害者福祉協会監事等を経て、2020-2022年、金融庁にて金融教育政策を担当。現在、日本CFA協会アドボカシーコミッティー金融教育WG座長および同協会エシックスチャレンジ審査員。



金融リテラシーとは単に金融に関する知識だけではなくて、それを基にした判断力、行動までを含めた概念です。リテラシーとは、読み書き能力ですが、ただ知識として知っていればいいわけではありません。OECD-INFE（金融教育に関する国際ネットワーク）が10年ちょっと前に定義を出しています。金融に関する健全な意思決定を行い、究極的には個人の良い暮らし（well-being）を達成するために必要な金融に関する意識、知識、技術、態度及び行動の総体。要するに知識というだけではありません。

実際にどのような中身のことを金融庁、あるいは金融広報中央委員会が教えてきたのか。高校生が使っているテキストでは、まず金融リテラシーマップの中の4つのコンポーネントを教えてください。

一番大事なことは、最終的にはwell-beingのためですが、最初は家計管理です。家計管理があって、生活設計です。最近はライフプランニングという言葉に置き換えている傾向にあります。それぞれのライフステージの途中で、例えば保険が必要になってきたり、住宅ローンを抱えてきたりという事で、途中で金融商品の選択、金融経済の理解というものがあります。ただ重要なことは、金融リテラシーは金融知識ではないということです。私たちがさえ新たなものが出てくると勉強し直さないといけないし、前々から存在しているものが、実は自分たちが考えているものとは違うものであったケースが存在します。

すべての人たちが知ることは本質的ではないので、必要になった段階で、信頼できる外部知見の活用が分かっているといいと子供たちには教えます。全部を覚える必要はないわけです。私自身も日本全国の小中学校、高校、大学でも教えてきましたが、ほとんど中身は忘れてよいのです。自分が必要だと思ったときには、信頼できる第三者に聞きなさいと教えます。

金融リテラシーマップの4つの柱を結びつけて、年齢層に応じて体系的に普及を図る方向ですが、全ての金融教育提供者に認識されているわけではない、必ずしも浸透していないというのが実は問題です。実は枠組を作らないといけない。『金融リテラシーは大事なんだ。それを学ぶためにどうしたらいいのか。それを提供するためにはどうすればいいのか』ということ、受け手側も提供者側もしっかり認識できるような環境にしていくというのが一番大事だと思います。

金融リテラシーマップは金融教育を提供する人たちのガイドライン、指針となるような形で作っています。これは日本だけではありません。各国の関連する当局が、その国で金融リテラシー普及をやっていくにあたって、こういう戦略でやっていこうというところを考えているわけです。

投資ももちろん大事ですが、その手前のところ、プラットフォームとしての家計管理、つまり、ライフプランニングが重要です。どうして自分たちが金融商品を買ったり売ったり金融商品を利用していくのか。なぜ金融経済の知識が必要なのか。一人で考えたり、怪しげな人たちの情報を信じるのではなくて、なぜ信頼できる人たちに聞かなくてはいけないのかを考える。ここまでの中心は、学生や子供とかを念頭に置いていました。実はそのところは心配していません。

逆方向で心配があります。2年くらい前から、成年年齢の引き下げと、主に高校の指導要綱の変更、その前年に中学の指導要綱の変更、その前年が小学校の指導要綱の変更と、1年ごとに指導要綱を少しずつ変えて、金融教育を強化していきました。その情報が流れると、主に金融機関を中心にこれはビジネスチャンスだという話になってしまった。例えば、株式の取引のテクニックを教えるようなものとか。それはそれで面白いのですが。しかし、目的はそこではありません。あくまでもWell-being、個人が幸せになることが重要です。

その中で自分がいろいろ行うコンポーネントの一つとして投資があります。これは金融庁にいる間も、大学で教えている間も、投資という言葉でひとくくりになっていることで、なかなか誤解が多いです。

私たちが教えるときは、投資とは全体が経済成長をする一つのパワーだということです。会社など理論価格が計算できるものは、ディスカウント・キャッシュフローで計算できるものです。キャッシュフローの成長がある程度推定できるものが投資になってきます。そうではなくてゼロサムゲームの世界は「売ったり買ったり」なので、日々のベースで上がったり下がったりする。これはあくまでも投機です。問題は、マーケット全体に参加していると、手数料もあり、ゼロサムで手数料を考えるとマイナスサムの世界があります。残念ながら若い人を中心に、投資といっても全部一緒くたになっているケースがあります。

講演では現在の日本が置かれている環境・状況について説明。金融リテラシー調査の解説。家計管理とライフプランニングが金融リテラシーの根幹であることや資産所得倍増プランの中での金融経済教育・金融リテラシーマップへの言及。今後の課題をお話いただきました。

(参考：金融リテラシーマップ)

Free Discussion

竹中 | 2000年代になってiDeCoが始まり、NISAが始まって、NISAから新NISAへといよいよ飛躍して、その過程では岸田首相が先走って、みんながびっくりするという一幕もありましたが、新NISAは岸田政権が後世に残す最大の功績ではないかと思います。やはり四半世紀アメリカに遅れている気がしますが、ようやく日本が株式や投資信託を通じた資産形成の環境が始まろうとしている、そういう感じをもっています。

津曲 | ちょっと怖いのが、前々からなのですが、NISAを投資商品だと思っている人がまだ多いわけです。かつ、それをうたって詐欺をしている人たちも多いので、そこのところは、正しいリテラシー普及が大事になってくると思います。

金融リテラシーは、今はプラスサイドの話ですが、セットでネガティブ・サイド、詐欺をどう抑えるのかがあります。騙される方は、先輩、知り合いから騙されます。逆に、その中に1人でも知っている人がいたらちゃんと横から言ってくれるというのが大事です。金融庁にいた時も、「中身を覚えなくてもいいけれど、自分が習ったことを少しでもいいから周りにもお話してね。トラブルが起こったときは相談できますよ。」と伝えました。

窓口は消費者庁ですが、それを覚えなくても、短縮ダイヤル188をかけたら、各都道府県の消費者生活センターにつながります。大体ケースを知っていますので、私が先輩から聞いた話は「実は詐欺なんだよ」と言ってもらえる。一番耳を傾けるのは自分のすぐ横にいる人たちなので、なるべくそこを広げていくというのが急がば回れですが。

岡本 | 逆に、誰でもいいから聞いてしまえばいいということになったときは、非常に危険も大きいですよ。基本に則った、正しいことを伝えてくれる人が周りにいてくれるといいのですが、そこのところはなかなか難しいところですよ。

参加者 | お役所からは、かなり距離をおいていますが、金融教育は、自分で自前の草の根金融教育を長年やっています。今、エンジンがかかって国を挙げて始まったということは大変喜ばしいことと思っております。今年、高校の教科書を見ようという活動をしています。自分でも社外取締役をやっているの、会社の職域向けというものもちゃんと受講しております。

それで感じることは、高校の家庭科の教科書を見ると、家計管理とライフプランが中心になっています。生命保険は何となく人生のリスク管理という感じで出てくる。資産運用のことはほとんど出てきません。株や債券という言葉一つもない教科書もあります。公共の教科書は、株式とはこういうものです、債券とはこういうものです。でもそれを金融商品として説明するという発想がない感じです。金融商品という感じではなく、株式とは、債券とはこういうものだという説明になっています。

金融商品を教えましょうということが、ちゃんとリテラシーマップにもあります。何となく金融商品、資産運用というと、そこでイメージされているものが投資信託どまりな感じです。みんな直接株式や債券を買う機会がないだろうから、投資信託さえ知っていればいいという感じに私は見えます。でも、「金融商品について教えてください」といったら、まずは株式と債券を理解しないで投資信託を教えるても駄目でしょ、と私は思います。

資産運用をすればどうして価値が増えるのか。それは誰かが価値を創造しているからです。それを教えるには株式がどういう成り立ちで、株式を買うということは何を意味するのかということとか、どうして株式は債券よりリスクが高いのかとか、リスクと、利回りと、金利の関係がどうなっているか。何か今リスクというと、グラフがあって、こっちがリターンで、こっちがリスクで、みたいな、誰かが計算したら勝手に出てくるような感じで教えられています。

でもリスクは、今、何が起こるんだろうとか、5年10年後どうなっているんだろう、そのことがリスクなんだという、生活実感に即したリスクの教え方が全然されていません。そして、そのリスクと金利がすごく関わっているということも全く教えられていません。株式も債券も教えていない状態で金融商品を教えたつもりになっているのは、どうなんだろう？と思います。

金融商品として最も基本的な株式や債券を教えていない状態で、資産運用をしなくてはいけないという、けしかけるような教育に今なってしまうている。その状態で投資詐欺に引っ掛かる若い人が多いのではないのかとさえ私は思います。だから株式や債券を教えるという発想が欠けているというのが一つの不満です。今、みなさん、大学

生、高校生、それより若い人に教えることに熱心です。

しかし、普通の大人の方が金融リテラシーのニーズを感じているのにも関わらず学ぶところがない。私は2週間入院していましたが、その時、リハビリの方が、私が金融関係の仕事をしていると言ったら、根掘り葉掘りこんなことを知りたかったと聞いてきました。ものすごいニーズはあるなと感じました。

津曲 | なかなか難しいのは、金融庁の代弁をするわけではないですけど、学校の入口は文科省です。私が入る前の段階で成年年齢の引き下げが目に見えていたので、だいぶ前からやっていましたが、指導要綱の改訂は非常に大変な作業らしいです。実は株式と債券についても教えなさいと入っています。教科書を作るのはあくまでも外部の教科書会社です。彼らは指導要綱を見ながらキーワードコンセプトを理解しやすいように教科書を作っていますので、大抵のものは入っています。

ただ問題は、教科書に入ったから、指導要綱に入ったからといって、ちゃんと教えているかといったら教えていない。だから、金融庁が、そのまま先生に使っていただく、先生たちに教えるポイントを見ていただく資料を出しています。そこではちゃんと説明しています。本当だったら、高校が終わるまでの段階でひと通り教える。いわば社会人、成人になって契約もできる、金融商品も売り買いできる、それまでに教えてあげるのがいいのでしょうか。

しかし、それは私たちの視点であって、学校自体は、時間ポートフォリオになっていて、削れるところがない状態です。昨年の指導要綱の変更。これは文科省の管轄ですが、文科省の方では、金融は社会システム、社会インフラとしての中の金融というところに軸を置いて教えます。家庭科では自分ごととしての金融というフォーカスでやっています。

最初にみんなが身に付けるであろう四資産について教えましょう。預貯金・債券・株式・投資信託という四つになります。ただ、問題意識としては、実は金融トラブルで一番多いのはFX、非公開株です。本当は直面してくるものは違うものなので、それを一律にこのやり方で全部教えなさいというのは、現実面としては今ではない。だからといってやらない方がいいという訳ではない。私も不満を持っています。

インターナショナルバカロレア、要するにクロスマトリクスで教えるような教育システムがあります。日本でも一部導入されている部分があります。今みたいな科目ベースで教えていると時間が足りなくなり、家庭科の中で金融が削られてしまっています。クロスマトリクス形式で、ある期間のユニットについては、そのテーマですべての科目を教える。

金融というのは、実はそれにフィットしています。金利の計算は算数の例題として使えます。フィロソフィーからなるところは文学のところ、もちろん社会でもそうです。科目間で割り振った形で金融教育をやっていると非常に学校自体、生徒自体、教育システム自体負担をかせずにできます。これがまさに抜本的なところになります。日本の教育システムを変えないとできない。今のベースだと多分、高校の段階で金融商品について、かつすべての生徒に理解させるという枠組みが正しいのではないのかと感じている次第です。

岡本 | ライフプラン、マネープラン、投資プランということで、非常に広い立場で投資を、金融と言っている気がします。最近well-beingと言いますが、私は「しあわせ持ち」と言っています。似たようなものでしょう。ちょっと違ったアプローチができてきていることは良いと思います。あまり金融、経済というよりも、「ライフの方が大事なんだよ」というそちらの方を強調するべきではないのかなという気がします。今日もありがとうございました。

(文責 FIWA)

このページを印刷する

カテゴリー FIWAマンスリー・セミナー講演 1



📅 2023年11月11日

FIWAマンスリー・セミナー講演 2

【Vol.251】FIWAマンスリー・セミナー講演より（講演2）

「ウォール街のランダムウォーカー」を読み解く（2）

講演 FIWA理事長
岡本 和久 CFA, FIWA®
レポーター 赤堀 薫里

【Vol.251】FIWAマンスリー・セミナー講演より（講演2）

バートン・マルキールの『ウォール街のランダムウォーカー』を読み解いています。この本が出て50周年です。全部で4部の構成ですが、5回にわたって、1回につき1部ずつお話をしていきたいと思っています（最後の一回はまとめ）。

マルキールのランダムウォーカーを読み解く第2回目です。今回はキモになる部分で、第2部のプロの投資家の成績表です。要するにマルキールはプロの世界は、満足のいくようなパフォーマンスはあげられないということをやや誇張して言っています。その一番の理由はプロの世界は競争の世界である。競争環境が厳しいほどパフォーマンスの足をお互いに引っ張ることになってしまうということです。



私は基本的に生活者の方は、全世界の株式インデックスファンドをずっと持っていればいいのではないのかということを書き続けています。別に私自身がアクティブ運用を全面的に否定しているわけではありません。ただ普通の人ができる分には、インデックスでいいのではないかと思います。それが52年証券市場でやってきた結論です。やはりアクティブで勝っていくためには、ほとんどのアクティブ運用者がやっていることよりも遙かに大きな作業を長期に渡ってやり、やっと実現ができます。学ぶということも含めて、時間と労力を惜しみなく注ぎ込む。しかもやっている人が、天性の相場観も含めて才能を持っている人じゃないといけません。これはスーパーアクティブと私は言っています。

株式には変幻的な価値があり、それがあ程度証券分析でわかるのですが、そのためには、スーパーアクティブな分析作業をしてやっと得られるものです。株価は基本的に実体を表わすものではなく、実態の影で、株式投機の短期的な予想は、特に心理的要素が余りにも多すぎるのであまり頼りにならない。長期で見れば株価は、株式の価値を中心に上下に変動している。それに乗っていくことは不可能ではないということです。それ以外のやり方でアクティブで儲かったということがあれば、それはスキルではなくて、むしろラック、運が良かったのではないのかと割り切っています。

確かにスーパーアクティブ運用者が運用するファンドを買うという選択肢もあります。ただ難しいのは、「今買って、30年後にバフェットさんのようなパフォーマンスになっているファンドは何ですか？」と言ってもわかりませんよね。仮にわかったとしたら、それはみんなもすでにそのファンドを買って、そのファンドのパフォーマンスはあまりいいものではなくなってしまう。そういう宿命にあるということです。普通のアクティブはインデックスファンドになかなか勝てない、簡単に言えばそれが現実だと思えます。

ライター・和久 和久

テクニカル分析のよりどころは、群集心理における集団形成本能がいったん始まったトレンドを持続させる。一つのトレンドはある程度続いていく。群集心理は続いていくという前提に基づいています。2番目に市場参加者間に企業のファンダメンタル情報の入手能力に差がある。だから早耳筋と遅耳筋があって、早耳の人はどんどん行動をとっていきけれど、遅い人は遅くなるから、一つのトレンドが続いていくということになります。投資家は新しい業績情報に対して、当初に過小にしか反応しない傾向がある。最初は小さい動きで上がりだす。でもだんだん上がりだすごとに、その情報に対して確信度が高まっていく。

それに対してマルキールは、チャート分析がなぜ上手くいかないのか。チャーティストはトレンドが形成された後にしか投資することはしない。チャートを見て、チャートに買いサインが出たから買う。つまり、みんなが買い出した後しか買えない。反対に、トレンドが崩れた後にしか売ることができない。

同じ手法を用いる人の数が多くなるほど、その有効性は低くなる。いろいろな投資手法があります。ただそれが非常に上手く相場に機能するという事になればなるほど、同じデータを見る。同じチャートを見る。同じ手法をフォローする。それらをしていることによって、その手法そのもの、データそのものの有効性が薄れていくということを行っています。それは本当にそうだと思います。

株価評価の要素ということで、他の条件が一緒であれば、合理的な投資家は配当や利益成長率が高い成長の持続期間が長いほど高い価格をつける。企業の利益のうち、現金、配当、ないしは自社株買いで還元される割合が多いほど高い株価をつける。合理的な投資家はその株価のリスクが低いほど高い価格を支払うはずである。一般的に金利水準が低いほど株価は高くなる。ゼロ金利、マイナス金利はどうであろうか？これは別の要素が入ってきてしまいます。

講演では、日本のテクニカル分析の歴史の解説。また、株価分析の二つの手法であるテクニカル分析とファンダメンタル分析について説明。最後にマルキールさんはアクティブ、プロはだめ、インデックスがいいんだと割り切っていますが、ただそれは論点を明確にするために誇張した言い方をしているのではないかと感じます。確かに将来に向けてアクティブ運用者となる人も存在する。しかし、それがどの人なのかを見付けるのは大幅上昇する銘柄を探すのと同じくらい難しいと結ばれていました。

このページを印刷する

カテゴリ FIWAマンスリー・セミナー講演 2
タグ 【Vol.251】 2023年11月15日発行

📅 2023年11月11日

FIWA認定会員 投稿コーナー

【Vol.251】FIWA認定新会員 紹介コーナー

お金の可視化は将来の漠然とした不安を目標に変える

株式会社 LIFEFAB代表 石川 泰 FIWA®

石川 泰 プロフィール

大学を卒業後、年金業務の政令指定法人であるIICパートナーズへ入社。アクチュアリー候補として年金数理業務に従事した後、野村証券、SBIベネフィット・システムズなどで一貫して年金関連業務に従事。現在は、先進諸外国同様に将来のお金が見え、老後のお金の不安を感じない日本社会を創りたいと考え、公的私的年金の統合管理プラットフォームの開発、資産形成支援・金融教育のシステム開発を行うLIFEFABを創業。

その他、SBI大学院大学経営管理研究科（MBA）を卒業しており、元プロボクサー。



私の想い

私が取り組んでいる事業は、日本の金融教育の基盤になると信じ、日々開発を進めております。共感いただける部分があれば気軽にお問合せや応援をいただけますと幸いです。

1人ひとり異なる老後必要資産が手軽に見えたら嬉しくないか？

人生100年時代という言葉が現実のものになりつつある現代で、お金の重要性は増えています。

一方で、将来の国の年金や会社の退職金・年金、そして一人ひとり異なる人生に必要な資産額はよく分からないということが実状ではないでしょうか。

実際に老後2000万円不足問題ばかり、現在の日本では、国や会社の退職金・年金情報が一元管理されていないため、将来のお金は見えづらいように感じます。

私自身、新卒から年金業界で働き、イギリスやオランダといった諸外国では国が率先して可視化（年金ダッシュボード）を推し進めている中、日本の法整備、実務運用では実現が難しいことに歯痒さを感じていました。

私たちLIFEFABは、この見えづらい将来のお金を、国や会社、そして、利用者の方に情報提供の協力をいただき、統計的に確度の高い将来推計を行うことで、一人ひとり異なる年金額や必要資産額を可視化します。

お金の可視化は将来の漠然とした不安を目標に変える

将来のお金の可視化によって、漠然と将来のお金に不安を感じていた方は、人生の必要資産額が明確になることで、不安ではなく目標になることが期待できます。

つまり、可視化による期待効果は、不安解消のために“なんとなく不安だから資産形成をしよう”や“お金があるから資産形成をしよう”ではなく“目標資産に向かってリスク許容度を踏まえながら、この資産を作るに

といった資産形成手段が必要で、このポートフォリオが最適だ”という目標達成に向けた意思決定が可能になることだと私は考えています。

商品の購入をありきとした資産形成ではなく、こうした1人ひとり異なる目標額に対するアプローチが本質的に老後の金銭的不安解消に効果があるのではないのでしょうか。

適切な意思決定には金融教育が重要

一方で、適切な資産形成に向けた意思決定には、当然ながら金融商品の知識や基本的なマネーリテラシーが求められます。

お金の見通しが立ち、資産形成のアプローチ方法が把握でき、その意思決定ができる水準での金融リテラシーを身につけることが複雑化する金融市場の中で自立した生活を送れる重要なポイントになるのだと感じます。

最後に

当社の目指す未来によって、1人でも多くの方がお金に不安なく、本当に望む自身の人生を歩める一助になりますと幸いです。

なお、サービス自体は2023年内にリリース予定ですので、お気軽に当社HPからお問合せをいただけますと幸いです。

株式会社 LIFEFAB

このページを印刷する

カテゴリー

FIWA認定会員 投稿コーナー

タグ

【Vol.251】2023年11月15日発行

📅 2023年11月11日

FIWA認定会員 投稿コーナー

【Vol.251】FIWA認定新会員 投稿コーナー

日本社会を豊かな社会へ、そして、人々が幸福な人生を送れる一助となれるように

寄稿 : Living with smile 代表 大西 寛, FIWA®

* FIWAは金融商品の販売を行わないアドバイザーに与えられる称号です

大西 寛プロフィール

約20年間電機メーカーでエンジニア&プロジェクトリーダーを経て、経営者である母親の介護を含め、家業の手伝いをし始めてすぐに母親が亡くなり、相続に直面したことをきっかけに開業。

現在、兵庫県を中心に「笑顔をやささない生活をひろげる！！」を理念に、相続コンサルタント&ファイナンシャルアドバイザー&生活サポーターとして、ライフサポートできる人が一家に一人はいる世の中になることを目標に活動中。

また、個別株式の長期投資を軸とした個人投資家でもあり、資格としてFPの他に上級相続診断士、介護職員初任者研修、そして、異業種の20年以上の会社員経験を含めた人生経験を踏まえ、人生を豊かにすることをテーマとした講演などを通じて、人生のリスクマネジメントの重要性を伝えると共に同志の認知拡大活動を行っている。



FIWA®を知るきっかけ

みなさん、こんにちは。

この度、FIWA®の正会員として認定いただきましたLiving with smile 代表の大西 寛と申します。

私は設立以来、FIWA®を応援している一人ですが、FIWA®を知るきっかけはちょっとした偶然によるものでした。

当時、私は人々の心の中にある笑顔をやささない生活をひろげるには、そして、人々の人生を豊かにするには人生のリスクマネジメントが非常に重要なことであり、その一つの要素であるお金に関して、日本にも本来の姿である顧客本位のアドバイザーが必要であるとの想いの中で、改めて過去に受講したある講座を見直した際に、ふと講師の一人として出演されていた「岡本和久さんは今、どうされているんだろう？」と思い、ネット検索したことが始まりです。検索した結果、FIWA®を設立されたタイミングであり、ちょうど、関西にFIWA®設立の説明にこられるということで、それに参加させていただき、理念に対し非常に共感させていただいたこと、そして、自分の活動の想いの後押しになったことは今でも覚えています。

私の人生設計に大きく影響を受けた一人に20代の頃に知った大前研一さんの存在があります。先ほど挙げたある講座とは、当時、大前研一さんが経営されていた株式会社ビジネス・ブレイクスルー（現在は株式会社Aoba-BBT）の講座の一つである「株式・資産形成講座」です。本講座にはたくさんの講師陣がおられ、現在、さわかみグループ総帥の澤上篤人さんからは、投資、そして、長期投資の重要性を学び、岡本和久さんからは、投機と投資の違い、そして、人生の目的は、お金持ちになることではなく、幸せ持ちになることであることを学びました。また、他の方含め、今も当時の講師陣が活躍されていることは非常に励みになりますし、この学びを受け継ぐと共に、自分の経験を通じて継続して学びながら、これからも人々に伝えていきたいと思えます。

最近の組織的な問題について

私は人生のリスクマネジメントの重要性を伝えていますが、組織的な問題について、少し思うところをお伝えします。

今は死語となっていますが、私が小さい時に「赤信号、みんなで渡れば怖くない」という言葉が流行った時があり、なるほど、この言葉は良い悪いは別にして、日本人の習性として、うまいこと捉えているなと思ったことがあります。組織的な問題はこの習性が留まることなく、悪い方向に進んだことが要因ではないでしょうか。

ここで、私が大事にしていることの中で、二つ紹介します。

一つは「だれが言っているかではなく、なにを言っているのか。また、だれがやっているかではなく、なにをやっているのか。」、もう一つは「今、所属している組織に対し、定年（長期の期間）ありきではなく、例えば、一年単位（短期の期間）で自分の人生が現状のままでよいのかどうか、振り返る時を設け、よければ、継続、よくなければ、自分の改善、そして、もし、その要因が組織に対してであれば、進言し、改善方向であれば、継続、改善方向でなければ、その組織から抜けるのも一つの手段」という考えです。

イメージは掴んでいただけると思うので説明は省きますが、この考えが少しでもあれば、最近の組織的な問題は違う方向に進んでいたのではないかと思いますし、今、不安やお悩みになっている方がこの考えを持っていただければ、人生において、気持ち的に少しでも楽になっていただけるのではないのでしょうか。

これからの活動とやりたいこと



私は相続コンサルタント&ファイナンシャルアドバイザー&生活サポーターとして活動しておりますが、やはり、1人での活動範囲は限られてしまうので、同志の組織の認知拡大を継続していきます。

その手段の一つとして「争族をなくし、笑顔相続へ」をミッションとした一般社団法人 相続診断協会と、今回、正会員となったFIWA®のロゴを事業旗に加え、日本の国土の75%を占める山々の頂上で事業旗を掲げ、百名山を達成します（登山される方、見かけた際は声をかけて下さいね）。

また、高齢化社会に伴う介護の実態を把握するために介護の現場に触れ、事業サービス向上を図ると共に人生のリスクマネジメントの一つである相続やお金（投資）について今までの人生経験を踏まえ、個人や自治会、そして、地方自治体、学校、企業団体など、あらゆる方々に伝えていき、そこで、たくさんの質疑応答を重ね、自分自身向上していきたいですし、残された人生、自分の視野拡大になることであれば、どんどんチャレンジしていきたいですね。

やりたいことはたくさんありますが、達成半ばなのが、好きな芸能/著名人の代表に大前研一さん、明石家さんまさん、田中美佐子さんがいるのですが、明石家さんまさんだけ、未だ、お会いして言葉を交わした事がないため、いつか達成できればと思っています。できれば、改めて田中美佐子さんとも。

◇ 最後に

正会員となり、投稿の機会をいただき、「内容はなんでもいいですよ」とのお言葉に甘え、とりとめのない内容・構成となったことご了承下さい。多少、私という人物がお分かりになっていただいたかとは思いますが、まだまだ、お伝えしきれていない部分はありますので、少しでも興味を持っていただいた方はお気軽にお声掛け下さい。

日本社会を豊かな社会へ、そして、人々が幸福な人生を送れる一助となれるようにFIWA®の仲間と共に学び、伝えていきたいと思えます。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

◇ 私を知っていただくための参考URL

- [上級相続診断士](#)
- [円満相続ラボのコラム](#)

このページを印刷する

カテゴリ FIWA認定会員 投稿コーナー
タグ 【Vol.251】 2023年11月15日発行



📅 2023年11月11日

動画紹介

【Vol.251】FIWA動画紹介

FIWAみんなのお金チャンネルで紹介した動画です

毎月第二水曜にDIY資産運用講座をYouTube「みんなのお金チャンネル」で公開しています。目的は以下の2つです。

1. 投資未体験者、初診者の方に資産運用で本当に重要なことを知っていただく
2. FIWAアドバイザーが投資未体験者、初心者の方に資産運用で本当に重要なことをどのように解説すれば良いかをしていただく

各回、10～30分程度を考えています。お役に立てればうれしいです。質問もご遠慮なくどうぞ。

DIY資産運用講座 第7回_ライフプラン、マネープラン、投資方針書

00:00 ライフプランの考え方

07:20 マネープランの考え方

17:52 投資方針書を書こう

24:45 アドバイザーの効用

(35 : 12)

20231011 MOCh DIY資産運用7 ライフプラン、マネープラン、投資方針書



これまでのDIY資産運用講座

はじめに 投機・投資・資産運用

<https://youtu.be/zjVgaujYaCw>

第一回 今年の収入は今の生活費と将来の生活費の両方です

https://youtu.be/40t1_4krC7o

第二回 株式会社と金利を学ぼう

<https://youtu.be/ERhLpqaPdQA>

第三回 75文字の資産形成と四つのWHY

<https://youtu.be/6EmayPLZFjY>

第四回 75文字の資産形成と五つのHOW

<https://youtu.be/J8QOGIR0HDg>

第五回 一生付き合えるたったひとつの投資信託の選び方

<https://youtu.be/9AeYvae6Tgs>

第六回 リタイア後の資産活用と生き方

<https://youtu.be/VUNHe6sSOiA>

四種類の投資家とアドバイザーの関係

00:00 今日のお話

02:30 Type1:富豪型

06:33 Type2:湧き金型

11:20 Type3:マネー・マニア型

16:19 Type4: 生活重視型

20:37 今、必要とされる本当のアドバイス

(25 : 06)

FIWAみんなのお金チャンネルがお送りする「四種類の投資家とアドバイザーの関係」特定非営利活動法人「...



このページを印刷する

カテゴリー

動画紹介

タグ

【Vol.251】 2023年11月15日発行



「円」と「縁」: ふたつの御「エン」を大切に作る生き方

対談: 岩國 哲人氏、岡本 和久

岩國哲人先生(以下、岩國さんと呼びさせていただきます)は、1971年に私が入社した日興証券の大先輩です。私は国際金融部に配属になりましたが、当時、岩國さんはパリの支店長等をされており、その活躍ぶりは東京オフィスにいた若造の私にとって本当に憧れの存在でした。その後、岩國さんは外資系証券会社で活躍され、出雲市長に転身され、さらに、国政に打って出られ衆議院議員として活躍をされました。現在は米国シカゴに居を移され、グローバルな視点から様々な提言活動を活発にされています。この度、帰国されたとき、貴重なお時間を頂戴し、幅広いお話をお伺いすることができました。この対談は岩國さんも私も日興証券に席を置いていたことから日興証券に関する話題が中心になっていますが、60年代から70年代にかけての証券界は「銀行に追いつけ、追い抜け」の気運と活気に満ちていた時代でした。出雲市長や国会議員としての岩國さんの活躍はご存じの方も多いと思いますが、若き日の岩國さんが証券市場に起こした多くの改革はあまり知られていないかも知れません。貴重な体験談です。

岩國哲人(いわくにてつんど)氏プロフィール

77歳。日興証券、モルガン・スタンレイ投資銀行、メリル・リンチ社日本法人の社長・会長などを経て1989年、出雲市長に就任。「行政は最大のサービス産業」の持論をもとに、ショッピングセンター内に行政の土・日サービスコーナーを設置するなど多くの行政改革を実行。1996年、衆議院議員に当選、連続4期を務める。日本の関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科の客員教授のほか、米国・バージニア大学、中国・南開大学、韓国・東西大学の客員教授を務める。現在は米国シカゴに居を移し、幅広い政策提言活動などを行っている。

<円と縁、二つの「エン」を大切に作る>

岡本 | このたびは夏の甲子園で高校野球をご覧になるための来日と伺いました。

岩國 | はい。お盆のお墓詣りもそうですが、今年で56年間、一回の休みもなく連続で「出場」(笑)しています。

岡本 | 岩國さんは出雲のご出身だと思いましたが、実は大阪の生まれなんですね。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

岩國 | 6歳の時に父が亡くなりました。その頃から戦争は激しさを増し、大阪が爆撃される前に私の母は私と妹を出雲に逃したのです。出雲であれば大丈夫だろうと考えたのでしょう。ですから、生まれは大阪、曾根崎小学校に入学しましたが、卒業することはなく、それからずっと出雲で育ちました。そういうことがあったので、出雲の人たちは私を市長にしたいと思ってくれたのだと思います。小さい時から母親と一緒に農業を一生懸命手伝ってきました。日本では農業をしている子供は信用されるんですね。それから、先祖を大切に。お墓参りには必ず帰ってくる。そして同窓会には必ず顔を出す。これらの条件が揃えば、地元の人からは信頼されます。それもあって、私は出雲市長に選ばれたのだと思っています。



岡本 | やはり「ご縁」を大切に、地縁、人の縁などですね。甲子園に毎年必ず来られるのもご縁を大切にしているということですね。

岩國 | そうです。甲子園のマウンドの土を頂いて出雲市の木造のドームはできています。そのお礼です。証券や銀行など金融機関で働く人は「円」を大切にしなければいけない。私はその円ではないもう一つの「縁」を大切にしなければいけないと考えています。両方の「エン」を大切にすることができる人はそれほど多くない。マネーの円を大切に人はいっぱいいますよ。しかし、日本人として生まれたもっと大切な縁をみんな忘れてる。私が特に強調したいことは二つのエンを大切にすることです。

<ケネディーの壁>

岡本 | 岩國さんは日本の証券市場が最も発展した時期にグローバルな活躍をされ、世界的な視野からその進化を見てこられました。最近の20年間も含めて岩國さんの高い立場から日本の証券市場をご覧になってどのような感想をお持ちか、非常に興味があります。

岩國 | 岡本さんはケネディーが大統領だった頃はどこにいましたか



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

岡本 | 私が高校三年の時にケネディー大統領が暗殺されました。その時は東京にいました。その翌年、1965年にニューヨークの大学に入学しました。その後、67年まで滞在しましたが、ベトナム戦争がどんどん激化する中で、大学のキャンパスはかなり荒んだ雰囲気だったことを覚えています。18歳になると全員が徴兵局に登録に行かなければいけない。ルームメイトも誕生日に落ち込んでいたのを覚えています。当時は国民皆兵でしたからね。成績が悪いとベトナムに行かされるというようなことも言われていました。日本の大学に戻り、とても明るい雰囲気でもみんな楽しそうなのにびっくりしたものです。楽しそうに反戦歌を歌っていましたよね。(笑)

岩國 | そうですか。ケネディーは大統領として非常に期待され、いまだに歴代のアメリカの大統領としてベスト10の中に入ることが多いのですが、しかしケネディーが本当に経済のことをわかっていたのか、私は疑問に思っています。彼は特に経済のことを勉強しているわけではない。経済的な発想もあまり感じられない。その意味では劣っていたと思います。ケネディーという大統領をもう一回評価し直す必要があると思っています。ケネディーが行ったアメリカのための大きな失策をもう一度考える必要があると思います。それが世界に、そしてアメリカにどのようなツケを残したか。そのような発想とか評論というのはほとんど見当たりません。ベルリンの壁でケネディーは「私もここに立っている以上はベルリンの市民だ(イッヒ・ビン・アイン・ベルリーナ)」と言っています。そのような発想は非常にアピール性がある。

一方で「ベルリンの壁をなくせ」と叫んでおきながら、世界の金融市場の中に金利平衡税というドルの壁を作ってしまった。それが、その後、どのように大きな負担を世界の金融市場に残してしまったか。その検証を私はやってみるべきだと思います。

<世界初のボンド・ファンドを入社一年目に開発>

岡本 | 確かにそのような視点からケネディーの政策を考え直しているという論評はほとんど無いのではないかと思います。それは徐々に日本の資本市場にも大きな影響を持ったのだと思いますが、日本の市場を考えると、1960年に岩國さんが中心となって、日興証券が開発をしたボンド・ファンドがありましたね。あの商品は日本の資本市場にとって非常に大きな意味を持ったものだと考えています。

岩國 | 世界で初めて株式ではなく債券のファンドを作ったのです。アメリカでも債券の缶詰を作るという発想はなかった。株式の缶詰ばかり。私はそのような証券の缶詰を2つ作りしました。一つは、岡本さんがお話しになった「ボンド・ファンド」、もう一つは「ジャパン・ファンド」です。

硬直した銀行の預金体系しか知らなかった日本の投資家に、流動性のある債券の缶詰を



長期投資仲間通信「インベストライフ」

提供する。そして、1万円単位の買い付けという世間の常識を覆して1円単位とした。1円単位とすることによって、再投資による複利効果が1円単位でできる。証券会社は1万円単位の資金しか扱わないという常識をぶち壊すことができた。銀行では1円単位で複利効果を楽しむことができるが、証券では1万円単位でなければならない。1円単位のお金は価値がないという常識の壁を破ることができた。したがって有利性がさらに増したわけです。流動性も増した。それが、「銀行よ、さようなら、証券よ、こんにちは」という言葉を生み出した。言わば、日本における金融戦争、金融革命の始まりだったと言えるのではないのでしょうか。

岡本 | できあがってみれば、なるほどと思うのですが、まったく何もないところからそのような発想を得たと言う事は素晴らしいと思います。どのようなことがきっかけで着想を得られたのでしょうか。

岩國 | 新入社員のとき、私は電車で通勤していました。手は吊り革に捕まりながら頭はその間、働いている。その電車内勤務時間を、アイデアを生み出すための時間に使いました。山手線に乗れば東京駅から東京駅に戻ってくる。12カ月たったら利子という乗客を降ろして1万円円で再出発する。10年間であれば毎月1本ずつ120本のファンドを作らねばならないのでは、証券会社にとって大きな事務負担になる。そこでオープン・ファンドにして、いつでも乗れる、いつでも降りられる様にすれば良いと考えたのです。これ山手線と同じでしょう。山手線の中でこういう発想が生まれる。12か月で降りる。小学1年生は小学2年生になれば新しい小学1年生が入ってくる。12本のファンドがあれば、それ以上、永久に新たなファンドを作る必要は無い。これにより少ない管理経費でボンド・ファンドの運営ができると判断したのです。多くの資金をこのファンドに導入することができました。それは電車に乗って通勤をした男の発想だったのです。それがなければできなかつた。

岡本 | 新入社1年目に「マル優制度」とボンド・ファンドは確か岩國さんが入社2年目に商品化した案件でしたよね。素晴らしいと思います。発想も非常にイノベティブです。また、23歳の社員の声を取り上げて商品化した日興証券という会社にも何か非常な若々しさを感じますね。

岩國 | 大蔵省は証券4社という名のもとに、4社には同じ仕事を同じ時期にさせるという方針を持っていた。これが公平性であると考えていた。私は「そんな不公平なことがあるか」と主張しました。日興証券しか考えなかつたことを、他社は頭を使わないで日興証券と同じ商品の販売許可を得ると言う事はおかしい。散々、反論したところ、大蔵省も妥協し、「それではこの商品は、日興証券だけに認めましょう。しかし、翌日、他3社にも認めます」ということになった。たった24時間の差をつけたのです。これは、しかし、大蔵行政の歴史の中で四大証券の1社だけに先に認可を与えた初めてのケースとなった。たった24時間の差ではあっても、日興証券が開発をした商品であるという実績は残します、ということでした。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

岡本 | 岩國さんはいつも新鮮な発想をお持ちですがその源泉はどのようなところにあるのでしょうか

岩國 | それはご縁を大切にすることだと思います。一円単位にすること、管理コストをできるだけ下げること、全て投資家により多くの利益を提供できるようにするための方法でした。そのようなアイデアを大切にしている金融機関を当局は優遇すべきである。それが、本当の意味で公平な扱いとなる。これらのコンセプトを一つの商品に込めたのがボンド・ファンドだったと思います。そういうことを、今の金融機関の人に言いたいですね。原点を忘れるなど。さらに言えば、世界を見る時にアメリカの真似だけをしていたのでは仕方がない。アメリカだけを見ていたのではボンド・ファンドのような発想は出なかった。アメリカの真似をすることが国際化、アメリカの真似をする事がグローバル化であるというのは、頭が全然グローバルになっていないということでもあります。人のお金を大切にするという原点から見ればまだまだ永田町や金融機関の人たちの認識は甘い。

岡本 | おっしゃるように何でもアメリカの真似さえすれば国際化であるような錯覚があります。その証拠に、やたらに「日本版」ナントカという商品が多い。いつも海外のものを日本に導入して、それを日本版と名付けて顧客に提供している。岩國さんがおっしゃるように、それが本当に日本の投資家のためになっているのかという疑問もあります。

岩國 | 日本は文化も歴史も欧米よりもはるかに長く成熟をしている。ですから、欧米のものよりも良いという意味で日本版というのがあればいいのですが、「物まねしております」日本版では仕方がない。欧米より良いものを「日本版」の商品として出さなければいけない。

< 民も官も海外では同じフロアという衝撃 >

岡本 | その点で言えばジャパン・ファンドのように外国の投資家に日本の良い商品を提供しようという仕事も岩國さんは中心となって活躍されました。これも今までには全くなかったことですよ。

岩國 | 私の上司は当時、遠山直道副社長でした。東大の先輩でもあり、東大のサッカー一部のキャプテンをやっていたからね。サッカーというのは野球の小さなボールよりもっと大きなボールでゲームをします。遠山さんは地球という大きなボールにチャレンジをしたのです。私は遠山さんとともに 1961 年にニューヨーク支店を設立するためにアメリカに行きました。そしてニューヨーク事務所をチェース・マンハッタン・ビルの 48 階に作ったのです。それまで、ウォール街の裏通りのようなところの小さな事務所を仮事務所としていたのを、チェース・マンハッタン・ビルに机や書類を運んだのです。当時、一階から 48 階まで直通で行くエレベーターがありました。それに驚きましたね。エレベーターというのは一階ずつ止まるものだと思



長期投資仲間通信「インベストライフ」

っていた。ところが途中止まらないエレベーターがあった。これに私はびっくりしました。なるほど、一階ずつ止まっていたのでは時間がかかってしょうがない。当時、日本には 48 階建てのビルさえなかった。アメリカでは 60 階建ての建物の中に 48 階まで直通で行けるエレベーターがある。今ではそんなこと当たり前ですが、それは大きな刺激を与えてくれました。

岡本 | 60 年代も初めということを見ると、さぞ驚きも大きかったことだと思います。

岩國 | そして 48 階に、日興証券、大蔵省、日銀が並んでいた。日本ではこのようなことはありえなかった。同じフロアで、官と民が並んだ。それも私には非常に新鮮な驚きでした。日銀も大蔵省もニューヨークに来たら、同じ階で仕事しているのだ。上下関係がない世界なのだ。同じフロアで同じように朝から晩まで仕事をしている。そういう雰囲気のある場所が 48 階までノンストップのエレベーターで行ける。48 階では、日興証券も大蔵省も日銀もみな同等である。むしろ、日興証券の方がいろいろな新しい発想を持っていたかもしれない。日銀や大蔵省は勉強しているかもしれない。しかし、ビジネスに使える新しい発想が、彼らにどれぐらいあったのだろうか。当時はファックスなどなかったので、テレックスでした。テレックスのテープが切れてしまうと、彼らが日興のオフィスに借りに来たり、あるいは反対にこちらが借りに行ったりする。小さな日本の大きな挑戦。そして大きなアメリカのマーケットの中で官も民も全く同等に活躍をしている。日興証券は隣の大蔵省が発行した国債を販売する。その資金は大蔵省が活用する。テレックスのテープを貸すだけでなく、資金の調達役目もする。その当時、東京にあった官と民の上下関係など全くなかった。

岡本 | チェース・マンハッタンにあった日興のオフィスは私も行ったことがあります。1972 年だったと思います。今から思えば小さなオフィスだったのでしょう。でも、当時の私には、「まさに海外店のオフィス。いつかここで働きたい！」と思ったものです。それがかなったのは、私が 2 年間のブラジル勤務を終えて 1975 年にニューヨークに転勤になったときでした。しかし、その時はもう、チェース・マンハッタンのビルではなく、もっと大きなマリン・ミッドランドのビルに越していました。60 年代の初めだと官民の差は想像を絶するぐらい大きかった。しかし、海外では平等だった。それは今からは想像しにくいほど衝撃的だったのでしょうか。

<日本株の缶詰、「ジャパン・ファンド」を設定>

岩國 | 「日本のために、日本のために、日本のために」といつも言いながら、日銀も大蔵省も自分で汗をかいていない。当時、資金不足であった日本のために、どうやって資金を調達するか、それを考えたのは 48 階の日興証券だった。日本の会社の発行している株式を缶詰にしよう。アメリカの投資家は日本の企業のどこに投資したらいいのか情報がない、知識もない、判断基準もない。それを提供している日本の証券会社もなかった。日興証券はそれをやろうとした。アメリカ人の投資家にとって、日立がいいか、東芝がいいか、それはなかなか



長期投資仲間通信「インベストライフ」

か難しい判断だ。しかし、日本という成長する国に対する関心は非常に大きなものがあった。とにかく、個別企業の情報がなかった。情報がなくても日本に投資ができるような手段を提供するのは日銀や大蔵省、日興証券の義務でしょう。答えを出したのは、日興証券、それが、ジャパン・ファンドだった。名前もわかりやすい。日本に関心がある人がすぐ買える。その缶詰の中には、おいしいソニーも東芝も日立もみんな入っている。そんなおいしい商品を提供する。我々の自慢ですけれども、そういうものをやったのが 1961 年の日興証券だった。ジャパン・ファンドは今でも存続し、米国で上場されていますよね。

岡本 | その時、アメリカの投資家の間で、当時はまだ新興国だった日本の株式を買うことに対する抵抗感のようなものはありませんでしたか

岩國 | わからないという不安はあったでしょうね。しかし、成長目覚ましい日本に投資をしなければ大きなチャンスを逃す。未来を買うチャンスを逃す。成長する国を買おう、成長する企業を買おうという投資家はアメリカにはたくさんいました。成長を買う、未来を買う、それでこそ投資家と呼ばれる資格がある。しかし、情報が足りない。日本の株式に詳しいアドバイザーもいない。どこに手を出したらいいのか、それがわからなかった。自分の大切なお金をどのテーブルに置くのが一番いいのか迷っている人がたくさんいた。迷っている人が多いという事は、それこそビジネスチャンスです。迷っている人がいなくなったらビジネスチャンスはなくなっている。証券会社も必要ない。迷っている大量のお金がある。これほどおいしい仕事は無い。これほどやりがいのある仕事もない。そういうやりがいのある仕事をするチャンスを絶好のタイミングで与えていただいたという事は、私が日興証券にいちばん感謝をすることです。野村もやっていない、大和も山一もやっていない。そのような投資対象を商品化することができた。日本の歴史の中で初めての事です。日本の株式市場の鎖国状態を破ったとも言えると思う。自らそれを打破したわけです。それに類する仕事っていうのはそれ以降あまりないですよ。そういう歴史を作ってきたのだという誇りは私たちにはありました。

<銀行と対等になりたい>

岡本 | 70年代に入って、今でいうサムライ・ボンド、海外の発行者による国内市場における円建て外債が次々に出た時も証券業界は競って欧州の発行者を募り、日本での発行を実現してきましたね。私は入社早々でしたが、あの当時は日興証券も、あるいは証券界全体が何か非常に勢いづいていて、どんどんイノベーションを実現していたような時期だったように思います。

岩國 | そうです。そして、社内もそういうことをやらせてくれるような風潮だった。その中でも特に日興のような自由闊達な雰囲気のある会社はなかったように思います。当時、新丸ビルにいまし



長期投資仲間通信「インベストライフ」

た。新丸ビルの日興本社の中で一番銀行に近いコーナーにあったのが債券部でした。その向かいには日本興業銀行がありました。金融界の実力者、ナンバー・ワンの銀行でした。大蔵省に対して対等にもものが言える銀行は日本興業銀行だけでした。そしてその銀行から湊守篤氏を日興は迎えました。三菱系と言われた日興でしたが、遠山直道副社長の結婚式の媒酌人を務めたのが、日本興業銀行の頭取でした。今では証券会社のトップの媒酌人は誰であろうと話題にもならないかもしれない。しかし、銀行と証券が激しく競合しているときに誰が仲人をするかというのは、実は大変なことだったのです。誰に仲人を依頼するか、それは三菱をはじめとしてみんなが関心を持っていた。だから、遠山直道夫妻の結婚式は色々な意味で日興がその名前を日本興業銀行にちなんで「日興」としたように、三菱から離れるわけではないが、その縁を大切にしつつ、なおかつ、興銀がバックにつく。そういうアナウンス効果のある出来事でした。

岡本 | 証券会社が「株屋」などと言われていた時代からそんなに経っていない当時ですから、銀行と証券の地位の格差は今とは比較にならないくらい大きかったでしょうね。

岩國 | ですから私はいつも日興のオフィスから、日本興業銀行の建物を見ながら、「興銀と対等、あるいは対等以上に仕事をする、それが証券の役目である」と思ったものです。そして日本興業銀行に頭を下げるだけでなく、日本興業銀行のワリコーという債券を日興が販売した。そういう意味では、静かに、静かに、大きな画期的なことが動いている、そのようなドラマが展開しつつある時期でした。

<時代の転機を象徴したサムライ・ボンド>

岩國 | そしてサムライ・ボンドと言う発想も、資本が足りなかった時代から、今度は多くの資金が日本に入ってきて、入ってきたものを外国で運用する、そのように発想が180度転換する時代でした。わずか10年ぐらいの間に100年分に相当するドラマがあった。大転換でした。今度はヨーロッパの発行者、デンマークとかスウェーデンとか、あるいは、欧州投資銀行など、欧州のために資金を提供してあげようという頭の切り替えの時期でした。それまでは誰もそのようなところに商売に行った人はいなかった。当時は何でもやらせてもらったので面白かったです。

岡本 | 私が入社したころ、岩國さんはパリにおられ、現地時間の深夜を過ぎた頃に長いテレックスがいつも入ってくるのを見て驚いたものです。支店長会議などでお帰りになったとき、遠くから拝見していても何か光り輝いているような気がしたものです。

岩國 | それは私だけではないでしょう。

岡本 | とにかく、国際部門の支店長会議は「綺羅星」のような方々が海外から帰国し、勢ぞろいを



長期投資仲間通信「インベストライフ」

していた。まさに憧れの姿でした。

岩國 | 国際部でも債券部でも私の周りにはたくさんのすばらしい人たちがいました。恐れを知らない会社でしたね。

岡本 | チャレンジ精神ですね。いろいろな規制の枠が取り払われていった時期で、若手が自由に活躍できる雰囲気でした。それが大きな飛躍のための原動力だったのだらうと思います。

<ケネディーの愚かな政策でユーロ市場が誕生>

岩國 | 日本はウォール街を尊敬しながら学んできたことは事実です。しかし、ウォール街のプレッシャーも受けてきたのです。そのウォール街といよいよ対決する時期がやってきた。ウォール街のモルガンとか、ファースト・ボストンとか、メリル・リンチとかと対決する時代になった。ドルは世界でいちばん大きな起債力を持った通貨でした。そのドル体制に対して、国際金融機関が対決できるようになったのは、ケネディーという大統領が愚かな政策をした結果です。これも大きなチャンスでしたね。ヨーロッパ、日本の金融界にとってね。「金利平衡税」によってドルに壁を作ってくれた。その結果、アメリカのドルという壁の外側にもうひとつの「欧州ドル」という通貨を使った自由な市場が出来上がるようになった。

岡本 | ユーロドル市場ですね。

岩國 | ワシントンがコントロールできない、初めて自由な市場を作ってくれたのが、ケネディーという皮肉にも素晴らしい大統領だった。彼はそれを意識していなかったかもしれません。

ケネディーがウォール街の覇権を自ら否定した結果、世界の金融市場の中心がウォール街からロンドンのシティへ移り、シティを中心とするユーロ・マネー・マーケットが成立した。そして、それがヨーロッパを結束させて、今のユーロ・ゾーンができた。EU を育てた一番の功労者は、皮肉なことにケネディーだった。ユーロ市場の成立でお金の壁がなくなってきた。その結果、ヨーロッパは結束しやすくなった。ヨーロッパ各国の共通点が非常に多くなったからユーロ・ゾーンの統一ができたのです。

ユーロドル市場、言い換えれば自由ドル市場が誕生したために日本の証券会社の仕事も増えましたが、それ以上に日本の銀行は、今までできなかった証券の仕事もできるようになった。アメリカと日本は銀行と証券は兼業してはならない。それが欧州では兼業できる。日本の証券には3倍の追い風、日本の銀行には5倍の追い風。日本の銀行界にとっての大恩人はケネディ大統領であるということを忘れず、近く駐日大使として赴任されるケネディーさんのお嬢さんを丁重に歓迎される必要があります。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

岡本 | 非常に長期的な視点での国際金融市場の興亡の歴史ですね。

岩國 | 今のEUの悩みも、逆に言えばそのお金のマーケットをコントロールし、責任を取るような体制もなく、政治家もいないことです。お金のマーケットは自由に発展してきた。しかし、悲しいかな、政治家はその自由なお金の世界がわからない。そういう政治面での遅れが目立つようになってきている。通貨というものは、その通貨を発行した国が責任を持つ、「通貨責任」がある。通貨責任というものが、その国の格付けにも影響をする。ドルの信認はアメリカの経済のコントロールがうまくいっているかどうかということが大切なわけです。我々にはそれが肌でわかります。しかし、それがネット世界ではわからない。ましてや、イタリアやドイツやフランスなどの問題が深刻化するにつれて、お金というものが大きな要素になってきていることを認識していない政治家がどのような政策をとるか、どういう責任を取り、どういう評価を受けるべきか、そういうところで鍛えられていないのです。ヨーロッパもアメリカの政治家もそこまで成長できていない。

岡本 | 「マーケット」という自由なグローバルな存在が経済の中心になっているのに、行政は相変わらず一国内の視野で規制によるコントロールをしようとする。この矛盾はマーケットに参加している人間でないとなかなか実感をもってわからないかも知れませんね。

岩國 | スペインなどヨーロッパ諸国では、一生懸命働いている人たちがいる。汗を出して働いてもそれが報われないような今、資本主義が問題を抱えている。「資本主義」というものは働けば幸せになれる。そして、それが力の弱い人を救う力を持っている。それが資本主義の素晴らしいところだと私たちは学校で教えられてきた。それを社会で実践してきた。夢があり、そのために働き、夢を実現してきた。世界のなかの基軸通貨はどここの国の通貨か、それは当時も今もドルです。そのドルのアメリカが、「通貨責任」を放棄した。結果としてケネディーはそれを宣言したとも言える。壁を作る、その上、アメリカが発行した通貨を、アメリカもどの国も、政治的な責任を取らない。無責任通貨、無責任マーケットというものを彼は作り出してしまった。その解決策を私たちは未だに出していない。

<「あんばい」内閣の問題点>

岩國 | そしてアベノミクス。その通貨無責任体制を日本のために見事に利用しています。自分の国の通貨を、安くすれば仕事が倍になるという。安くすれば、貿易が倍になる。ネーミングは素晴らしい。安くすれば倍になる、安倍（あんばい）内閣。これほど分かりやすい看板は無い。そうでしょう。私もこの政策を3年前から提案してきました。

岡本 | 結局、ケネディーの失策によって生じてしまった資本市場の問題が世界中に蔓延し、今日



長期投資仲間通信「インベストライフ」

のような不安定な金融市場を生み出しているということですね。それは延々といまに至るまで続き、しかも、グローバルに伝染している。日本もうまくそれを活用している。

岩國 | 国境のないグローバル企業が、まさに「あんばい内閣」の安くすれば倍になるというお手本を示してくれている。しかし、「あんばい」体制の中で、一般の人が本当に安心できるのか、あれは安心の「あん」であるべきでしょう。政治がやる事は安心を倍にすることなんですよ。通貨を安くしたり、株価を倍にしたりすることだけではなく、安心を倍にして欲しいというのが私の願いで、自民党に対する私の提言でもあります。私の提言はすべて安心を倍にするためのものです。「安心を倍にする」を読み違えて「安くして倍にする」政策だけを行い、働く人の所得は必ずしも増加しているとは限らない。「働く人のための社会保障が心配です」というのが、今、私が一番お話ししたいことのエッセンスです。分かっていただけでしょうか

岡本 | はい。確かに安くして倍にする政策は、いずれ何らかの副作用をもたらすだろうと思います。それが結果として安心を半分にする事にならなければいいなと願うのみです。先ほど二つの「エン」というお話をいただきましたが何かお金に対する大切さの感覚が失われてきているような気がしてなりません。それは大人の世界だけの話でなく、子供の世界でもそのような傾向が見られます、お金は欲しければもらえると思っている子が多い。その背景として、やはり非常に長期にわたって超低金利が続いているということだと思えます。金利が低いという事はお金の価値、特にその時間価値が非常に小さいということでもあります。低金利政策は必要だから行われた事は分かるのですが、それが非常に長く続いたことによる副作用が何か日本の社会を大きくゆがめているような気がしてなりません。

岩國哲人が渾身の筆力で書き綴った
明日の日本に見る希望、
豊かな田舎への願い、
役所の無駄遣いへの苦言、
東京部政への抗議、
竹下登首相のちよつといひ話
自民党への苦言の言葉、
病んでいる地球への愛憎、
税金はこうして守る提案、
怒りを忘れた政治家への怒り、
環境はリストに挙げ、
アジア食糧安保・日本基地、



「二月三舟」第十二巻が
出版されました。

軽い皮肉とユーモア、どのページにも日頃から願う斬新な切口と
表現が貴方を待っています。定価1500円、好評発売中。
ご寄望の方は岩國事務所までご連絡下さい。

お問い合わせ先 岩國哲人事務所
TEL:03-3584-1892 FAX:03-6893-5009 EMAIL: mail@twakun.com

食の安心を
若者の職場を
医療の安心を
年金の安心を
株価二万円を
明るく元気な日本を
高速道無料の権利を
男女の平等な権利を



誰にも平等な教育を
誰にも平等な一票を
政治を国民の手に
拉致日本人を
日本の誇りを

とりかえす!!

私はその戦いを皆さんと
共に続けてまいります。

岩國哲人

以下、11月15日号へつづく

<モデルポートフォリオ:2023年10月末の運用状況>

単位: %

		トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の投資額に対する騰落率			
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)		10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円
4資産型	積極型	-1.81	12.91	10.52	9.47	13.74	7.43	35.45	64.51	174.72
	成長型	-1.29	7.90	7.26	6.74	9.28	4.91	21.92	40.08	114.06
	安定型	-0.77	3.03	3.89	3.91	5.41	2.44	9.64	18.72	63.70
2資産型	積極型	-1.16	10.99	12.44	10.39	15.21	7.36	39.90	75.14	216.56
	成長型	-0.58	7.74	9.14	7.70	10.90	5.98	27.04	49.46	144.63
	安定型	-0.01	4.50	5.70	4.90	7.29	4.60	15.22	26.93	85.16

* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2022年10月末に1万円投資資金を積み立て始め、2023年9月末の投資資金までとする(2023年10月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。出所: イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがMorningstar Directにより作成。Morningstar Directについてのお問い合わせは、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンのお問い合わせメール (<https://www.ibbotson.co.jp/contact-us/>) まで。

ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

4資産型	国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA- BPI (総合)	外国債券: FTSE WGBI (除く日本)	
	積極型	40%	40%	10%	10%
	成長型	25%	25%	25%	25%
	安定型	10%	10%	40%	40%
2資産型	世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: FTSE WGBI (含む日本)		
	積極型	80%	20%		
	成長型	50%	50%		
	安定型	20%	80%		

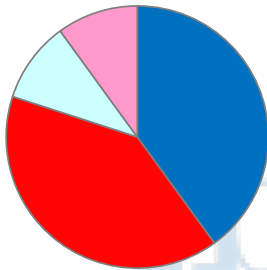
ポートフォリオは「インベストラ이프」が参考のために考案した資産配分に基づき、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出しています。特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。

「長期投資仲間」通信『インベストラ이프』のその他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

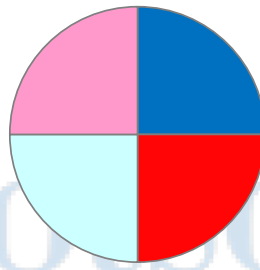
4資産型

- 国内株式: TOPIX
- 外国株式: MSCI KOKUSAI
- 国内債券: NOMURA-BPI (総合)
- 外国債券: FTSE WGBI (除く日本)

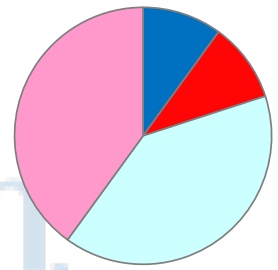
積極型



成長型



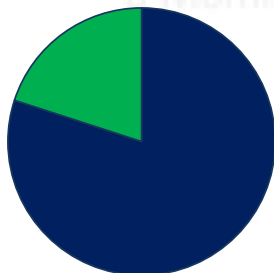
安定型



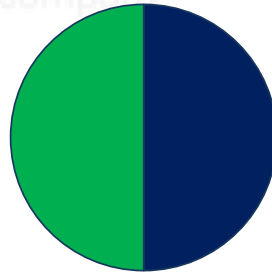
2資産型

- 世界株式: MSCI ACWI (含む日本)
- 世界債券: FTSE WGBI (含む日本)

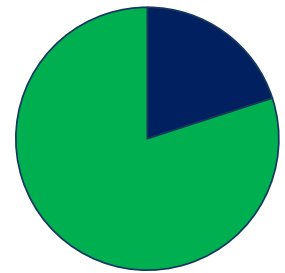
積極型



成長型



安定型



<国内で購入可能な代表的ETF:2023年10月末の運用状況>

当資料は「インベストライフ」のために、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出、作成しています。特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。※ファンド名をクリックするとそのファンドの詳細を見ることができます。

「長期投資仲間」選定「インベストライフ」のその他の記事はこちらをご覧ください。http://www.investlife.jp/

* 投信ブログ 「梅屋敷商店街のランダムウォーカー(インデックス投資実践記)」の管理人、水瀬ケンイチさんのご協力で銘柄を選定しました。
 なお、国内株式、債券、コモディティについては「インベストライフ」が選定しました。

Ticker	ファンド名	トータルリターン (米ドル換算)					トータルリターン (円換算)					リスク (円換算)		1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率					1万円ずつ積み立てた場合の 月末資産額				純資産 2023年10月末		総経費率 または 信託報酬 (%)	イボットソン 分類	連動を目指す 投資対象指数
		1か月	1年	5年 (年率)	7年 (年率)	10年 (年率)	1か月	1年	5年 (年率)	7年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	7年 84万円	10年 120万円	1年 12万円	5年 60万円	7年 84万円	10年 120万円	百万ドル	億円				
1308	上場インデックスファンドTOPIX (日興AM)	-4.42	17.47	2.78	3.97	4.23	-3.00	19.69	9.00	9.54	8.86	16.10	14.11	9.43	34.98	41.32	58.64	13.13	80.99	118.71	190.37	59,154	89,586	0.0748	国内株式・ 大型ブレンド型	TOPIX(配当込み)	
1348	MAXIS トピックス上場投信 (三菱UFJ国際)	-4.42	17.47	2.78	3.97	4.23	-3.00	19.69	9.01	9.54	8.85	16.10	14.11	9.43	35.00	41.33	58.64	13.13	81.00	118.72	190.37	19,485	29,508	0.0858	国内株式・ 大型ブレンド型	TOPIX(配当込み)	
1554	上場インデックスファンド世界株式 (MSCI ACWI)除く日本(日興AM)	-4.69	7.95	7.57	8.13	6.39	-3.27	9.99	14.09	13.93	11.11	18.20	15.80	6.53	44.92	60.38	84.63	12.78	86.95	134.72	221.56	61	92	0.264	外国株式・ 世界型(除く日本)	MSCI ACWI ex Japan指数(円換算)	
VT	Vanguard・トータル・ワールド・ストックETF	-2.96	10.22	7.54	8.47	6.98	-1.52	12.30	14.06	14.28	11.73	18.45	15.87	7.69	47.18	62.91	89.36	12.92	88.31	136.85	227.23	27,388	41,478	0.07	外国株式・世界型	FTSE グローバル・ オールキャップ指数	
I CO	iShares® グローバル 100 ETF	-1.51	15.13	11.48	12.21	9.28	-0.05	17.30	18.23	18.23	14.13	19.21	15.92	12.15	67.00	91.86	128.73	13.46	100.20	161.17	274.47	4,104	6,216	0.41	外国株式・世界型	S&P グローバル 100 指数	
TOK	iShares® MSCI コクサイ ETF	-2.28	10.93	9.03	9.91	8.12	-0.83	13.03	15.64	15.80	12.92	19.36	16.40	8.98	54.36	73.40	103.63	13.08	92.61	145.66	244.35	170	257	0.25	外国株式・世界型	MSCI KOKUSAI(コクサイ)指数	
EFA	iShares® MSCI EAFE ETF	-3.09	15.22	4.24	5.07	3.08	-1.64	17.40	10.56	10.70	7.66	17.77	15.88	5.76	38.30	45.88	58.12	12.69	82.98	122.54	189.74	44,982	68,123	0.33	外国株式・ 大型ブレンド型	MSCI EAFE 指数	
VSS	Vanguard・FTSE・オールワールド (除く米国)スモールキャップETF	-4.83	8.58	2.74	3.44	2.61	-3.41	10.63	8.96	8.98	7.17	18.20	17.12	3.08	28.23	33.61	45.98	12.37	76.94	112.23	175.17	7,334	11,106	0.07	外国株式・ 中・小型ブレンド型	FTSEグローバル・ スモールキャップ(除く米国)指数	
VTI	Vanguard・トータル・ストック・マーケットETF	-2.62	8.39	10.16	11.51	10.47	-1.17	10.44	16.83	17.48	15.37	20.57	17.11	9.34	57.44	81.32	123.02	13.12	94.46	152.31	267.62	297,780	450,972	0.03	米国株式・ 大型ブレンド型	CRSP USトータル・マーケット指数	
VB	Vanguard・スモールキャップETF	-5.82	-3.55	5.58	7.74	7.00	-4.42	-1.73	11.98	13.51	11.74	23.54	20.26	0.83	37.97	52.22	79.43	12.10	82.78	127.86	215.32	41,046	62,162	0.05	米国株式・ 小型ブレンド型	CRSP USスモールキャップ指数	
EEM	iShares® MSCI エマージング・ マーケット ETF	-3.56	10.26	0.91	1.96	0.56	-2.13	12.34	7.03	7.42	5.02	17.68	17.62	3.57	16.78	21.69	32.51	12.43	70.07	102.22	159.01	16,092	24,371	0.69	外国株式・ 新興国型(複数国)	MSCI エマージング・マーケット指数	
WVO	Vanguard・FTSE・ エマージング・マーケットETF	-3.45	10.95	2.98	2.93	1.70	-2.02	13.05	9.21	8.44	6.22	17.49	17.18	5.07	24.08	30.55	42.89	12.61	74.45	109.66	171.47	68,046	103,053	0.08	外国株式・ 新興国型(複数国)	FTSEエマージング指数	
FM	iShares® MSCI フロンティア & セレクト EM ETF	-6.47	5.53	0.71	2.50	0.95	-5.08	7.53	6.81	8.00	5.42	16.91	15.34	4.95	20.82	24.63	31.31	12.59	72.49	104.69	157.57	560	848	0.8	外国株式・ 新興国型(複数国)	MSCI フロンティア&エマージング・マ ーケット・セレクト指数	
I GOV	iShares® 世界国債(除く米国)ETF	-1.18	-0.14	-4.77	-3.50	-2.82	0.29	1.74	1.00	1.68	1.49	6.44	8.06	2.19	1.14	2.23	3.38	12.26	60.68	85.88	124.05	1,065	1,613	0.35	外国債券・世界型	S&Pシティグループ・ インテリナショナル・ ドレジャーリー・ボンド指数(除く米国)	
AGG	iShares®・コア 米国総合債券市場 ETF	-1.57	0.36	-0.08	-0.24	0.86	-0.11	2.25	5.97	5.11	5.33	7.59	4.46	4.38	16.77	21.89	27.80	12.53	70.06	102.39	153.36	88,999	134,785	0.03	米国債券・中長期型	バークレイズ米国総合指数	
TI P	iShares®・米国物価連動国債 ETF	-0.70	-0.87	2.08	1.25	1.46	0.77	1.00	8.27	6.68	5.96	7.98	5.04	5.54	25.41	32.26	39.14	12.66	75.25	111.10	166.96	19,679	29,803	0.19	米国債券・ インフレヘッジ型	バークレイズ 米国TIPS指数(シリーズL)	
RWV	SPDR ダウ ジョーンズ インテリナショナル リアル エステート ETF	-4.87	-2.70	-3.98	-2.15	-1.46	-3.46	-0.86	1.83	3.09	2.92	16.45	16.03	-2.50	3.16	4.78	7.75	11.70	61.90	88.02	129.30	295	446	0.59	海外不動産 (除く米国) セクター型	ダウ・ジョーンズ・グローバル (除く米国) セレクト・リアル・ エステート・セキュリティーズ指数	
I YR	iShares®・米国不動産 ETF	-3.60	-7.48	2.10	2.92	4.76	-2.16	-5.73	8.28	8.44	9.41	19.71	17.82	-2.74	18.42	29.18	46.26	11.67	71.05	108.51	175.51	2,445	3,702	0.4	米国不動産 セクター型	ダウ・ジョーンズ米国不動産指数	
GSG	iShares® S&P GSCI コモディティ・ インデックス・トラスト	-4.27	-1.61	4.88	5.75	-3.81	-2.85	0.25	11.23	11.42	0.46	25.39	22.39	12.78	83.07	84.17	72.17	13.53	109.84	154.71	206.60	1,082	1,639	0.75	コモディティ・総合	S&P GSCI商品指数	
GLD	SPDR®ゴールド・シェア	6.72	21.35	10.01	6.23	3.78	8.31	23.65	16.67	11.92	8.38	11.88	14.48	15.28	54.08	70.37	83.98	13.83	92.45	143.11	220.78	55,163	83,542	0.4	コモディティ・貴金属	金地金価格 (ロンドン午後決め値)	

*積み立ては税引き前分金再投資、計算月数分を運用したものとします。例えば1年の場合は2022年10月末に1万円で積み立てを開始し、2023年9月末投資分までの2023年10月末における運用成果とする(2023年10月の積み立て額は入れない)。

出所: MorningstarDirect のデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせはイボットソン・アソシエイツ・ジャパンのお問い合わせメール(<https://www.ibbotson.com.jp/contact-us/>)にてお気軽にご返信ください。